

# 扇の松の木の下で

花水をもっと「わたしたちのまち」に



第7号

2004年4月3日

■ 編集発行 ■

花水福祉コミュニティ

づくりグループ

「チーム土と風」

## 後藤さん、ありがとう…お疲れ様でした

花水公民館で主事として活躍してこられた後藤信幸さんが、このたび異動されました。花水福祉コミュニティでは花水のために力を尽くしてきた後藤さんにメッセージをいただきましたインタビューを行いました。聞き手は私たちのメンバーの高橋龍正さん。

### 就任当初の思い出

**司会** 後藤さんが、花水公民館に着任されたのは、いつ頃ですか。

**後藤** 平成10年の4月に花水公民館に着任したので、ちょうど6年です。ちなみに、平塚市役所勤務は24年間になりますので、その4分の1を花水公民館で過ごさせていただきました。

**司会** 花水公民館への辞令を受けられた時の思い出を聞かせてくださいますか？

**後藤** わたしはもともと、市民の方々と接するところの部署に行きたくて、公民館勤務の希望を出しておまして、その希望がかない、思わず「やった〜！」と叫んだのを覚えています。

**司会** 花水に着任当初の様子を教えてください。

**後藤** 行政職員である私に対して、不平や不満を言うてくる人がいるんだろうなと覚悟していたのですが、皆さんに、とっても温かく接していただき、優しくしていただいたことを覚えております。自分は役所の仕事の中では、公民館が一番合っていると実感しました。

### 後藤さんが力を入れた事業

**司会** 公民館というのは市民に一番多く接する場所と思いますが、後藤さんが心掛けてきたことを教えてくださいませんか？

**後藤** 少なくとも地域に出向いたら、地域の方々と、建前でなく本音で、地域や平塚市への思いなどを話し合う姿勢は貫いていきたいと思ってきました。当たり前のことですがね〜。

**司会** 仕事をしていく上で、特に力を入れたことなどありますか？

**後藤** まず、マイナーで暗いイメージと思われがちな公民館ですが、「あれ！面白そうな事業をやってんじゃん！一度いってみようか」と、出来るだけ多くの方々に公民館に足を運んでいただきたいと思い、最初の1年目は、前例にとらわれず、新しい魅力ある事業をたくさん打ち出すことを心掛けました。

**司会** 具体的にはどんなことでしょうか？

**後藤** 力を入れた点を3点ほど挙げてみます。第1に、地域の様々な人材を公民館や学校の活動に活かす点があります。私は、地域の人材を、次の5つに分け事業展開を図りました。まず一番目が地域の達人で、百人一首や料理教室の先生など公民館・学校で得意分野を教えてくださいの方々。二番目が地域お気軽サポーターで、公民館だよりのイラストや保育など自分の得意・好きな分野のお手伝いをして頂ける方々ですね。三番目がチビッコサポーターで、小学生中心に子ども事業の企画・運営、募集、たよりの作成を行ってもらいました。四番目が公民館利用団体ノウハウ活用シリーズで、囲碁、絵、茶道、三味線、花、紙工作、ダンス、陶芸、編物など約300の登録団体が持つさまざまなノウハウを活用させていただきました。五番目が地元のプロと仲良くなるうシリーズで、地元事業者にケーキや料理づくりでのプロのノウハウを伝授していただきました。

**司会** 地域の活発な交流が目に見えるようです。力を入れた、あと2点はどんなことでしょうか？

**後藤** 力を入れた点の第2は、学校との連携、子供の地域参加の推進です。

少し詳しく説明しますと、総合学習の授業やふれあい花水で、公民館利用団体などの地域の人材を活用していただくため、地域と学校との橋渡し役をしました。公民館まつりでは小学校、中学校、保育園、幼稚園に出向き、公民館まつりへの参加や家庭教育学級への事業提案をお願いし、たくさんの子供達が参加するようになりました。「チビッコ事業ではチビッコサポーターが企画、募集した延べ100以上の事業を展開をしました。

力を入れた点の第3は、地域との連携の強化です。例えば、防災活動の側面協力として、内閣府のモデルに指定された、地域の防災グループの事業への協力や自治会などとの連携のお手伝いをしました。地域イベントへの協力で、「であいふれあい祭り」でのイベント広場の準備・片付けなどの手伝いなどがありましたね。

インタビュー  
土と風  
第5回

**司会** 公民館の事業として、そして、その斬新さと実現に向けてのフォローなど、後藤さんは素晴らしい方だと思っております。でも、難しいこともあったと思いますが、この際、お聞かせいただけませんか？

**後藤** 本当に楽しくて、つらいことはほとんどありませんでしたよ。ちょっと思い出したのは、やはり公民館主事は1人なので、39度の熱が出たときに、公民館運営委員会の司会を、何枚も着込んで、「やばい。このままだったら死んじゃうかな」って、思った時があったくらいですかね。(笑)



司会の高橋さん(左)と後藤信幸さん(右)

### これからの公民館のあるべき姿

**司会** それは大変でしたね。ところで、地区公民館と住民はどうあるべきかと思いませんか。

**後藤** 公民館は貸し館業務や事業も大切ですが、地域コミュニティの拠点機能も大切だと思います。これは私の個人的な夢かもしれませんが、地域住民が企画・実施・運営を行う公民館を目指すことができると最高だと思います。

**司会** 具体的な進め方はどのような形になりますか？

**後藤** まず、公民館の地域お気軽サポーターなどにより、公民館まつりや公民館事業の実施、運営などを、各自が協力できる時に、協力できる部分を、気軽にみんなで支え合える仕組みを、地域の方々とともに築き上げていけたらと、考えています。次の段階としては、地域の方々が主体的に公民館を運営し、行政側は、

困った部分のみをサポートする形もあるかと…。

**司会** そのようなことが実現できるのでしょうか？

**後藤** 先日、総務省が「地方自治体一般職任期付き職員採用法」の改正案をまとめました。短時間勤務職員の枠を新たに設けました。将来、短時間勤務職員として採用された地域の方が、キーマンとなって運営することも可能でしょう。

また、昨年6月の地方自治法の改正によって、「指定管理者制度」が創設されました。公民館などを、NPO法人や民間企業が、施設利用の許可権限まで与えられ運営できる制度です。将来、地元にNPO法人を組織し、公民館を運営したほうが、コスト面からも助かると考えます。今後、地域拠点である公民館を核として、「自分達の地域は自分達で運営する」流れになって行くのではないのでしょうか。

### 今後の花水に期待すること

**司会** 今後、花水はどのようにになると良いとお考えですか。

**後藤** 幸い花水地域には、この取材を受けています花水福祉コミュニティグループや、いくつかの防災活動グループや福祉分野のNPO法人など、様々なグループが存在します。その様々なグループと、既存の自治会や社協、学校や公民館、福祉施設などが緩やかなネットワークと無理負担のない協力関係を築いていける姿というのが目指す姿・望む姿だと思っています。

**司会** 少しイメージが難しいのですが、例えばどのようなことでしょうか？

**後藤** 花水福祉コミュニティグループが、イベントを企画したとします。そして、地域の様々な団体に、イベントへの協力を呼び掛け、地域内の様々な団体が、無理なく応えられるというような…。「うちの団体はこの部分で協力出来るよ」とか「今回はパスです」とか、無理のない協力関係が必要かなと感じています。そのためには、インターネットによる「情報ネットワーク」や、「花

## 架空請求・悪徳商法 にご注意ください！

ご相談は下記で受け付けています



### 平塚市消費生活センター

八重咲町3-3 JAビルかながわ2階

電話 0463-21-7530

相談時間 月～金曜(除く祝日)

9:30～12:00

13:00～16:00

最近、架空請求の被害が相次いでいます。これは身に覚えのないサイトの利用料や情報料などの請求がメールや手紙、ハガキ、電話などでくるものです。このような場合、身に覚えの無い場合は無視しても大丈夫ですが、請求元にあわせて連絡をとったり、支払ったりしないで、まず消費生活センターに相談するようにしてください。また、独居の高齢者の方が悪質商法の被害にあうケースが増えています。点検をして危険だと不安をあまり、契約を急がせる点検商法や催眠商法などです。万が一契約してしまった場合でも契約書を受け取った日からその日を含めて8日間はクーリングオフ期間といって無条件で解約できる場合があります。架空請求や悪質商法に関する相談先は平塚市消費生活センターです。また、このような被害を防ぐためには地域での情報交換や見守りも大切です。

水地域助け合い協働サロン」のようなものも必要でしょう。そのネットワークの核・拠点として、公民館や市民活動センター、学校などの施設を有効活用して行くことも今後必要になってくると思います。

## これからの抱負

**司会** 今度は行政マンとして、やりたいことをお聞かせいただけますか？

**後藤** 花水にも関連しますが、様々な活動グループや地域団体間のネットワーク、地域の人材のネットワークをコーディネートする人を各地域の中から数名掘り起こし、側面から協力したいと思っています。一方、地域の方にもっと行政というものを身近に感じていただけるように、行政側から地域に向向いて行く、又は、一緒に事業を行っていく協働の仕組みづくりへの協力が出来たらいいなと思っています。

**司会** さて、終わりに、何か地域の皆さんにメッセージなどいただけますでしょうか。

**後藤** 地域の役員さんは、一人で幾つもの役職を兼務されている方も多く、なかなか役員のなり手がなくて困っているという話をよく耳にしました。でも、地域回帰の時代、きっと地域の中で、いろいろと自分の生きがいや居場所を見つけてみようと思っている方たちは増えてくると思っています。そういった方々に、地域の役員さんを担っていただくという情報が、まだまだ十分に伝わっていないような気がします。

今後、公民館だよりや自治会の広報紙や地域団体だより、ホームページなどを活用して、さまざまな募集の取り組みを行っていけば、より多くの方々が地域にかかわり、福祉や防災、防犯、子育て、ゴミ問題など、多種多様な地域の課題を、たくさんの人達で支え合っていけるのではと考えています。今後このような課題を、地域の方たちで検討して頂けたら有難いし、私も協力できることはしたいと思っています。

**司会** 今日は、本当に、貴重なお言葉をありがとうございます。今後の後藤さんのご活躍を花水地区の住民の一人として期待しております。

(於:花水公民館)

## 私にとってのボランティア

阪神淡路大震災から早いものでもう9年が経ちました。あの時、私の同級生も被災しました。やっとのことで連絡が取れたとき、民生委員を引き受けている彼は「最も被害を受けたのは、目の見えない方々や耳の聞こえない方々だ。マスコミはあまりの悲惨さに目をそらして報道してくれないので、全国の人には知らないだけだ。」と話してくれました。

私は、その話を聞き、その年のうちに会社を辞めて福祉会館をたずねてみました。とりあえず手話講習に参加してみましたが、役に立つ手話通訳になるには道が遠いことを知りました。そのうちに、図書拡大の講習会が始まり、5冊ほど作成しました。その後、パソコンを利用した点訳の講習会が始まり、点訳のお仲間に入れていただいて9年目に入っています。

パソコンを利用した点訳について、少し説明しますと…まずスキャナーを使って何百頁にもおよぶ本の文字を写し取り入力します。300頁くらいに及ぶと時間にして10時間ほどかかります。翻訳ソフトを使うとあっという間にカナ文字に変換されます。あとは文法上のあやまりがないかをチェックして作業完了です。このようにして、自分の家のなかでも十分にボランティア活動ができるというわけです。

また、私は花水福祉コミュニティのらぶチームのメンバーとして車いすで高齢の方々を七夕にご案内したり、福祉ビデオを見る会をたくらんどりにしています。♪何もしないで生きるより、何かを求めて生きようよ♪の水戸黄門の主題歌さながらに、毎日毎日を楽しみながら暮らせることに感謝し、頭を働かせて充実したボランティア三昧の日々を楽しんでいるところです。(三杉力男 77歳)

## 風の声

### 「あなたが主役の小地域福祉活動」

近年、小地域福祉活動が、都市部を中心に進められています。花水福祉コミュニティの活動もこの小地域福祉活動の一つです。家族や近隣との身近な人間関係を大切に、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていける福祉の街を、住民自らの手でつくっていく活動です。自らがサービス提供者であり、サービス受容者になるのが小地域福祉活動の特徴です。小地域福祉活動は、高齢化などの社会変化によって起こる福祉ニーズを、住民同士の支え合いによって充足することを目的にしています。住民1人ひとりの多種多様な個性を生かし、シーズとニーズを結びつけることで、相互扶助の輪をつくります。言い換えれば、地域住民の個性を活かして「できない」とことと「できること」を補完し合います。どちらかと言うと、“できないこと”に注目するのではなく“できること”を伸ばしてより豊かな生活を創造することを目標としています。例えば、高齢者が新米ママの子育ての相談に乗る。あるいは主婦がおじいちゃんの料理教室を開くなどが代表的な例です。そのシーズとニーズを結びつけるためには相互扶助のシステムが必要です。いかに相互扶助のシステムをつくるか、言い換えれば多様な地域住民が交流できる場やシステムを創造できるかが、これからのコミュニティの課題なのです。前回「風の声」で紹介した「地域通貨」も交流を可能にする一例です。花水福祉コミュニティも、この「場」としてサロンなども開催しています。ご興味のある方は、一緒にレッツ小地域福祉活動！

(檜山大 空手道場清風館指導員)

# 花水福祉コミュニティづくり

## ●マップづくりチーム

たすけあいマップリニューアル作戦開始！「花水たすけあいマップ」の編集・印刷・製本をしたチームです。今春から花水のたくさんの皆さんと、新しいマップを作るための意見交換をしていきたいと思っています。皆さんの集まりに、声をかけて下さい。みんなの声で、マップの内容をよりパワーアップさせていきましょう！

(林田直子 tel 24-9840 夜間)

地域福祉や地域づくりに興味のある30名が平成13年8月から始め、今年は5チームに分かれて活動を進めています。

メンバーも随時募集中です。興味のある方はお気軽にお電話で。



## ●サロンチーム

(みんなの出会いを大切に作るチーム)

お茶のみ会にいらっしゃいませんか？花水のことを気軽にお話できるお茶のみ会を毎月第2火曜日と第4土曜日に花水公民館で開いています。花水の初心者もプロも誰でも参加できます。楽しい情報交換の場として一度のぞきにいらしてください。

(佐々木節子 tel34 - 3482)

## ●地域福祉を考える会

地域福祉の主役は私たちです。いよいよ平塚市の地域福祉計画が完成します。地域の住民一人一人が主役の地域福祉計画です。子どもから高齢者まで安心して楽しく暮らせる花水地域をめざして、皆でゆっくり話し合ってみませんか？月一回土曜日午後に予定しています。

(宮坂由美子 tel 20-1737)

## ●チーム土と風 (情報紙発行)

この「扇の松の木の下で」を発行しています。情報紙に掲載したい記事のある方、また編集に協力していただける方を募集中です！

(平田実 tel 32-6870 または  
林田直子 tel 24-9840 夜間)

## ●らぶチーム (ボランティア育成チーム)

出前ボランティアで楽しんでいます。月一回の湘南老人ホームへの出前ボランティアも3月で5回目になります。チームから都合のつくメンバーが集い花コミのメンバーに声をかけているうちに、ほかにもお仲間が増えて毎回5～6名で出かけていくようになりました。ホームの皆さんと千代紙を使った季節の貼り絵を作ったり、混声アカペラ合唱団でうなったりなど、ほんの少しの時間ですが、ホームの皆さんにもたいへん喜んでいただいています。「扇の松の木の下で」での呼びかけにより、新しいお仲間も増えました。皆でやればとても楽しいボランティア！あなたも気軽にお仲間入りしませんか？お待ちしております！

(鈴木憲子 tel 31-9619 夜間)

**平塚をきれいにしています。**

花水の皆さんもご協力ください。

平塚をみがく会は、平塚をきれいな町にすることを目的に活動しています。毎月一回(主に日曜午前中)駅周辺の落書き消しなどを行っています。会の活動は町の景観をきれいにするだけでなく、きれいな町作りを通じて青少年の健全な成長を助けることにもつながります。花水地区の皆さんもぜひ一度参加してみてください。みんなで平塚から、そして花水から落書きをなくしていきましょう！

連絡先：原園(はらぞの)信夫さん ☎ 34-5738 / 090-4133-4279

## 編集後記

今回、インタビュー記事のテープ起こしはグループメンバーのご家族にご協力いただきました。また、前回と今回のレイアウトおよび編集作業は1歳のお子さんを持つお母さんが引き受けてくださっています。風の声に寄稿してくれた檜山さんはまだ20歳台の前途有望な若者です。皆、忙しいのでメールで原稿を交換しながらの作業ですが、こんなにすばらしいものが出来ました。(りんだ)

第3号(2002年11月)

荻野俊夫さんインタビュー

第4号(2003年2月)

木谷正道さんインタビュー

第5号(2003年5月)

介護に困っている人に聞きました

第6号(2003年12月)

花水たすけあいマップ制作・発行を終えて

**バックナンバー**

## 編集・発行

花水福祉コミュニティづくりグループ「チーム土と風」

グループホームページ <http://y7.net/hanamizu/>

(活動スケジュール、活動記録などを報告しています)

e-mail [hanacrosslove@anet.ne.jp](mailto:hanacrosslove@anet.ne.jp)

〒254-0821 平塚市黒部丘2-10 シティハイム花水104

tel/fax:0463-32-6870 (編集担当:平田実あて)